

令和7年度
仙台市市民センター
子ども・若者・大人事業

成果報告会

事例集

つながる地域 広がる可能性

市内の各市民センターで世代別（子ども・若者・大人）に行われている
「市民参画型の講座」の発表をします！地域を舞台とした、さまざまな
学びや活動事例を紹介します！

日時

令和8年1月18日(日)

13:00~16:25

場所

仙台市生涯学習支援センター

6階体育館/トレーニング室

子ども事業・若者事業・大人事業とは

本市市民センターで取り組んでいる、子ども・若者・大人の各世代を対象とした、市民参画型の学習事業のことです。「参画」とは、「企画の段階から活動に加わること」で、自分の思いや考えを活動に生かすことができます。

○子ども事業（子ども参画型社会創造支援事業）

子どもたちが、それぞれに地域社会の構成員としての意識を育みながら成長していくことを目指し、子どもたち自身が主体的に参画し、子どもならではの役割と可能性を自由に発揮できる事業。

○若者事業（若者社会参画型学習推進事業）

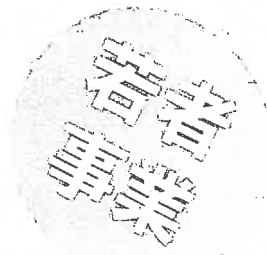
若者が地域づくり活動への参加や様々な人々との学び合いを通じて、身近な地域をより良くすることへの意識を高め、自発的・主体的に活動することを学ぶ事業。

○大人事業（住民参画・問題解決型学習推進事業）

各区中央市民センターのコーディネートのもと、住民と市民センターの協働により地域課題を発見し、その課題解決への取組を学び、実践する事業。



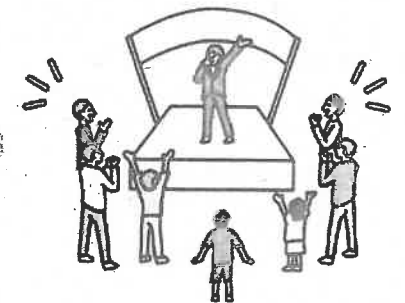
目次



実施区	事業名（実施館）	ページ
【青葉区】	N（なかやま）プロジェクト （中山市民センター）	1
	木まち たんけん隊 （木町通市民センター）	
【宮城野区】	キッズもりあげ隊 （宮城野区中央市民センター）	2
	チーム「ニコ鶴」プロジェクト （鶴ヶ谷市民センター）	
【若林区】	すすめ！沖野ひまわりプロジェクト （沖野市民センター）	3
	チャイルドボランティア チャボ！ （若林区中央市民センター）	
【太白区】	ほくらの長町黄援隊！2025 （太白区中央市民センター）	4
	にしたがキッズ情報局2025 （西多賀市民センター）	
	茂庭台をもっと元気にし隊 （茂庭台市民センター）	5
【泉区】	得監ふるさとづくりプロジェクト （得監市民センター）	

実施区	事業名（実施館）	ページ
【青葉区】	若者によるまちづくり実践塾 西公園フランディングプロジェクト （青葉区中央市民センター）	6
【宮城野区】	まいぷろ （宮城野区中央市民センター）	
【若林区】	仙白縁プロジェクト （若林区中央市民センター）	7
【若林区】	わかふし （若林区中央市民センター）	
【太白区】	長町秋のフェスティバル2025 ーみんなが主役！長町広場！ー （太白区中央市民センター）	8
【泉区】	ICP Izumi Community Project （泉区中央市民センター）	

太字は発表団体



目次

太字は発表団体

実施区	事業名（実施館）	ページ
【青葉区】	北山さんぽみち ― 過去から未来へ （北山市民センター）	9
	台原森林公園をまるごと楽しもう （旭ヶ丘市民センター）	
	防災デイキャンプ2025in通町小 （柏木市民センター）	10
【宮城野区】	広がれ！ススムシの輪（リーン） （岩切市民センター）	
	高砂の魅力再発見プロジェクト （高砂市民センター）	11
	東口ゆうえんち （榴ヶ岡市民センター）	
	市民企画会議 「日本全国幸町プロジェクト ～＃幸町でつながろう！～」 （幸町市民センター）	12
	地域連携宮城県準絶滅危惧種 ミズアオイ生息地田子プロジェクト （田子市民センター）	
【若林区】	Nanaフェス！ （七郷市民センター）	13
	わたしのふるさとプロジェクト （六郷市民センター）	

実施区	事業名（実施館）	ページ
【若林区】	集まれ！わんぱくキッズ ～お父さん出番です～ （沖野市民センター）	14
	子どもイベントを考えよう （若林区中央市民センター）	
【太白区】	太白おやじネットワーク事業 （太白区中央市民センター）	15
	八木山おやG7 （八木山市民センター） 共催	
	みんなの広場プロジェクト （茂庭台市民センター）	16
	パワフルとみざわネットワーク （富沢市民センター）	
	楽元の森プロジェクト （山田市民センター）	17
【泉区】	かむりの里・子育てフレイス ～地域いきいきプロジェクト～ （根白石市民センター）	
	まちを知る 七北田を歩く ―地域いきいきプロジェクト― （泉区中央市民センター）	18
	つながるプロジェクト （松陵市民センター）	

「N（なかやま）プロジェクト」

中山市民センター×青葉区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

中山市民センター地域内では地域行事やイベントなどが多数開催されており、地域人材として活躍できる若者世代が求められています。そこで、仙台育陵中等教育学校と中山中学校の生徒の皆さんが小学生へ向けた講座の企画・運営や、地域行事のボランティア等を行うことで、若者世代が地域で活躍し、実践力を身に付ける場を提供しています。



↑ 定例会の様子



↑ 「ポップコーン作らないか？」



↑ 「ドキドキ忍者ライフ」



↑ メンバー集合写真

2 令和7年度の活動

令和7年度は5月から毎月1回程度の定例会を開催し、小学生対象講座のテーマやタイトル、内容などを話し合いながら、準備を進めていきました。10月にはNプロジェクトメンバーの企画講座「忍者にでもなる？ドキドキ忍者ライフ」を開催しました。森の屋敷にタイムスリップした参加者が屋敷主からの忍者試験に挑戦していくという内容です。講座の始まりには導入劇があったり、メンバーが忍者衣装を着用して子ども達を出迎えたりと、自分たちが考えたコンセプトを大事にしながら、進めていきました。

また、講座の企画、運営だけでなく、メンバー募集のために中高生へのPR企画「ポップコーン作らないか？」を実施したり、「中山市民センター・児童館まつり」で、ボランティア活動したりと活動の幅を広げました。

3 成果・今後の展望

●成果

- 令和6年度までは定例会ごとに出席しているメンバーが異なり、リレーのように内容を決めていく傾向があったが、メンバーが安定して参加できているため、統一感をもって内容を決められるようになりました。
- 今まで参加してきたメンバーが高校生となり、中学生メンバーの取りまとめができるようになりました。

●課題

- ここ数年、小学生対象の事業を企画・実施しており、定型化しつつあるため、準備や段取りに安定感が出てきた一方で、ワンパターン化してきた傾向にあるため、さらなる工夫が必要です。

4 今後の展望

本事業が継続的に中高生の人材育成の場となり、地域づくりや地域コミュニティづくりの一助となるよう、学業に部活に忙しいメンバーの参加しやすい環境を整えていきたいです。また、小学生だけではなく、大人も巻き込んだイベントや活動を行い、企画員が地域で活躍できるように支援していきたいと考えています。

「木まちたんけん隊」

木町通市民センター×青葉区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

木町通地域は、近年のマンション建設に伴い住民は増えていますが、町内会や子ども会の減少により、子どもたちは地域とのつながりが希薄になっています。そこで、木町通界隈のまちたんけんを行い、地域の魅力に気付いてもらおうと豆知識やクイズを交えた「木まちすごろく」を制作して同年代だけでなく様々な人に、子どもたちの成果や地域への思いを共有してもらうことを目的としています。



2 令和7年度の活動

今年度は、「柏木・二日町・木町通エリアのたんけん」「市民センターまつりでのポスター展示」「木まちすごろく作り」を行いました。1回目の会議で今年度の方針を確認し、地域のどこをたんけんしたかを話し合いました。その結果、柏木・二日町・木町通エリアをたんけんすることに決めました。



●柏木・二日町・木町通エリアのたんけん

扶餘Worldや仙台レコード・ライブラリー、元祖仙臺駄菓子本舗熊谷屋、妖精の家、仙台トルコ雑貨店、DonTacos 木町通大学病院東口前店、宇佐見商店木町店、花桂へたんけんに行きました。バックヤードの見学やお店の成り立ちなどを聞くことができ、地域の人と交流ができる機会となりました。



●市民センターまつりでのポスター展示

たんけんした場所を地域の人に知ってもらうために、ポスターを作りました。ポスターを見た方にはシールを貼ってもらい、多くの人にたんけんの成果を見てもらうことができました。



●木まちすごろく作り

デジタルと手書きを組み合わせて、たんけんした場所の豆知識やクイズを交えた「木まちすごろく」を作成しています。作った「木まちすごろく」は、木町通児童館や木町通小学校（各クラス）、町内会へ配布予定です。

3 成果・今後の展望

●成果

地域のお店をたんけんし、お話を聞くことで地域への愛着がより深まってきました。令和7年度は、多くのお店へ行き、知ったことや伝えたいことをポスターに簡潔にまとめる力の成長につながったようです。

●今後の展望

引き続きまちたんけんをしながら、同年代だけでなく幅広い年代の方々に地域の魅力を知ってもらえるようにポスター等を制作していきます。



「キッズもりあげ隊」

宮城野区中央市民センター（地区館）×
宮城野区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

「キッズもりあげ隊」は、原町・宮城野・東宮城野小学校から集まった子どもたちが企画員になり、毎月1回の作戦会議で“地域を盛り上げるため、自分たちでできること”を話し合っ、イベント等として作り上げます。今年度が14年目の事業です。まちづくりやこどもの活動支援に関心のある大学生が学生アシスタントとして、ファシリテーターや活動のサポート役を務めています。



2 令和7年度の活動

(1)「水まつり」



8月の夏休み最終日に市民センター前の芝生広場で、猛暑に負けないよう、ずぶぬれになれるイベントを開催しました。「水でっぽうドッジ」はキッズもりあげ隊が新しく考えた遊びです。2チームに分かれ、互いの体につけたボイを水でっぽうで撃ち合います。他にも「水ヨーヨーつり」や「射的」などたくさんのコーナーを用意しました。キッズたちはそれぞれの担当コーナーで、スタッフとして地域のみなさんを盛りあげました。うれしいことに、「水まつり」をきっかけにキッズもりあげ隊への参加を決めたメンバーもいました。



(2)「ゴーストワールドクエスト〜なぞをといてお宝をゲットしよう!」



子どもたちは“自分たちも楽しめて、地域がもりあげる”ことを考え、11月に「なぞときイベント」を企画しました。作戦会議で、熱中症対策で夏にできなかった「おぼけやしき」をやりたいという意見が出て、話し合いの結果、いろいろなコーナーを回ってシールを集めるとお宝の隠し場所がわかる、という形にまとまりました。他にも「クリスマス工作」「新聞紙レース」「ミッションインボックスクイズ」のコーナーを用意しました。準備も運営も大変でしたが、学生アシスタントの協力を得ながら、ぎりぎりまで作りこみました。子どもたちが考えた新しいアイデア（なぞとき要素の追加、来場者と一緒にクリスマス飾り作成など）が会場のにぎわいにつながりました。



3 成果と課題、今後の展望



今年から参加したメンバーはまだ慣れないところがあり、これまでに経験を積んできた6年生がみんなを引っ張ってくれました。特に去年から参加している子どもたちは今まで以上に自ら考え行動しようという姿が見られ、新メンバーやイベントに来た人たちに積極的に声がけする意欲がありました。

また、自身がキッズもりあげ隊に参加していた学生アシスタントもいます。高学年から下級生にこれまでの取組が受け継がれており、学校だけでなく学年を超えたつながりと、地域人材が育まれています。

今後も、子どもたちの“おもしろそう!”“楽しませたい!”という気持ちを大切に地域を盛り上げるため、活動の支援を継続していきます。



「チーム「ニコ鶴」プロジェクト」

鶴ヶ谷市民センター×宮城野区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

本事業は、中学生が主体となり、地域における世代を超えた学びや交流の場を創出することを通して、社会貢献・地域貢献に対する意識を育むことを目的として実施しました。鶴ヶ谷中学校の生徒24名が企画員として参加し、地域の現状や課題を踏まえて話し合い、地域活性化を目的とした企画の立案から運営までを自ら行いました。大人は、企画の理解や安全面に配慮しつつ、助言や伴走支援を行いました。

2 令和7年度の活動

中学生自身が「地域のために自分たちに何ができるか」をテーマに企画会議を重ね、活動内容を検討しました。その結果、11月には地域団体が主催するマルシェに「ニコ鶴」としてブース出店することを決定し、企画・準備・当日の運営までを主体的に行いました。

また、地域を盛り上げる取組みとして11月に運動会を企画していましたが、インフルエンザ感染拡大防止のため延期し、3月に開催を予定しています。

● 企画会議（全10回）



企画会議では、中学生が中心となり、自分たちが住む地域を「どのように盛り上げたいか」について意見を出し合いました。地域サポーターの大人からの助言を参考にしながら、多くのアイデアの中から実現可能な企画を選び、形にしていきました。その結果、「①地域のマルシェへの出店」「②運動会の開催」の2つの活動を決定しました。

● まるっとmini マルシェ出店

地域活性化を目的としたマルシェにおいて、中学生が来場者を楽しんでもらうことを目標に、出店内容を話し合い、準備を進めました。当日は「わたあめ」「オリジナル缶バッジづくり」「ストリートピアノ」の3つのブースを運営し、来場者との交流を通して会場を盛り上げました。

地域のイベントに中学生が主体的に参加することで、会場には活気が生まれ、世代を超えた交流の場となりました。中学生自身も、来場者からの感謝の言葉を受け、自らの行動が地域につながっていることや人の役に立っていることを実感する機会となりました。



3 成果・今後の展望



本事業を通して、中学生が主体となって企画・実施することで、学校外において自ら考え、行動し、発信する経験を積むことができました。また、地域の一員として自分たちが地域づくりに関わっているという当事者意識が育まれ、地域貢献の意義を実感する機会となりました。

今後は、中学生の主体的な活動を地域全体で支え、応援する体制づくりを進めていきたいと考えています。さらに、中学生を中心に、高校生・大学生・大人がともに関わり、世代を超えてより良い地域づくりについて考え、行動できる場を継続的に創出していきたいです。

「すすめ！沖野ひまわりプロジェクト」

沖野市民センター×若林区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

沖野ひまわりプロジェクトは「こども実行委員会」が中心となり令和6年10月に活動を開始しました。沖野ひまわりプロジェクトとして、「沖野地区」をひまわりのビタミンカラーでいっぱいにするこ
と、3月11日に「こども防災事業」を開催すること、の2点を目標に、こどもたちの企画会議を開き、地域の方の協力をいただきながら活動を進めています。ひまわりは東日本大震災のがれきの中から芽を出した「石巻と根性ひまわり」の第15代目です。



【館南5号公園のひまわり】

2 令和7年度の活動

4月に「沖野ひまわりプロジェクトこども実行委員会」が中心となり、沖野児童館を中心とした「こどもグリーンボランティア」のメンバーと一緒に、ひまわりの種まきを行いました。全部で535本の苗を育て、地域の方や関連団体のみなさんに渡しました。沖野老人福祉センターさんの花壇では、「出張プロジェクト」として利用者の方と一緒に苗を植えました。「ひまわり、ありがとうね」「きれいに咲くといいね」と自然に会話が弾みました。沖野小・沖野東小・沖野中学校にも苗を渡し、学校の敷地内に植えてもらいました。9月には、沖野市民センターのロビーで「沖野ひまわり写真展」を開催しました。地域の方々はもちろん、こども実行委員会のメンバーも沖野地区や自分たちが育てたひまわりの写真を撮影し、ロビーにたくさんの方々のひまわりの写真が飾られました。写真展には、290名の方の来場があり、地域の方々の関心の高さを知ることができました。また、4月から9月までの沖野地区での活動をまとめて「みやぎ花のあるまちコンクール」に応募し、優秀賞を受賞することができました。地域の方々に協力してもらい、沖野地区にたくさんの方々のひまわりがあふれたことが、受賞のポイントになったと感じています。11月に行われた沖野地区市民まつりでは、地域の方々に、受賞の報告とご協力のお礼を伝えました。これから令和8年3月11日に実施する子ども防災事業「紙コップビルミネーション」の開催を目指して頑張っていきます。



【4月のたねまき】

3 成果と課題

実行委員会のこどもたちの活動に、地域の方々が賛同し、たくさん協力いただけたことが一番の成果だと感じています。ひまわりが咲き終わった後、「来年も開催してほしい。」と種を採集して持ってきてくださる方もいました。このことから、こども発信のこの活動が、地域に根付きつつあると感じました。これからも活動を通して地域の方と交流を深めていきたいです。



【町内会長さんに苗をお渡し】



【日々のお世話】



【令和7年3月11日
「紙コップビルミネーション」】



4 今後の展望

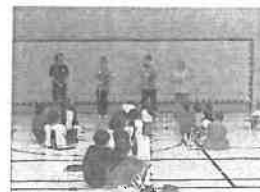
子どもたちの会話の中から「ひまわりプロジェクト委員会」に入りたいとの声が聞かれるようになりました。今後、メンバーを増やして、沖野地区にますますたくさんの方々のひまわりの花が咲くよう、頑張っていきます。

「チャイルドボランティア チャボ！」

若林区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

この事業では、子どもたち自身が「地域のためにできること」の企画・実施する活動を通して、「自分の存在の大切さ」や「地域社会の一員としての自覚」を育むことを目指しています。若林区内の小学4年生～中学3年生50名が登録しています。

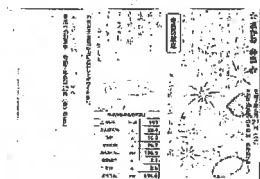


【ブラインドサッカー体験】

2 令和7年度の活動

地域の方々に向けたお手紙書き

NPO法人あかねグループが、高齢者に配達する弁当に添える手紙書きに定例で取り組んでいます。受け取る相手のことを考え、文やイラストをていねいに書いた手紙が地域の方々に届けられます。回を重ねるごとに文章やイラストも上手になりました。そして、時折届く「お返事」を通した、地域の方々との交流も生まれています。



【心を込めて書いたお手紙】

南小泉児童館との活動

今年は南小泉児童館との活動を増やし、6月には沖野おりづるの会さんを招き折り紙工作づくりを行いました。沖野おりづるの会の皆さんのサポートを受けながら作品を仕上げる中で、参加者の交流が生まれました。また、8月の児童館まつりでは、チャボ！から有志の実行委員を募り、児童館の児童と共に企画・運営を行いました。活動を重ねる中で、児童館の子どもたちもチャボ！の活動に興味を持ち、「4年生になったら入りたい！」と言っている児童もいて今後が楽しみです。



【児童館まつりの準備】

地域ゴミ拾い活動

こどもたちから、「地域に出て活動をしたい」という声が上がリ、11月に、若林区中央市民センター周辺でクリーン作戦を行いました。歩いているうちにだんだんとごみを見つけられるようになりました。薬師堂に着く頃には、たくさんのごみが集まり、地域をきれいにすることができました。



【地域ゴミ拾活動の様子】

3 成果と課題

地域の方々に喜んでいただける活動ができたことはもちろんのこと、チャボ！メンバーに加え、活動支援のジュニアリーダー、児童館の児童など、年齢や学校を問わない、たくさんの交流が生まれていることが大きな成果です。さらに、地域の大人との交流を通して地域課題を捉え、活動に生かすことで、より活動のねらいが達成できると考えます。

4 今後の展望

チャボ！メンバーの声を聞くと、「〇〇を作って地域の方にプレゼントしたい」、「イベントをして地域を明るくしたい」など、地域の方々を笑顔にすることを大事にした活動を望んでいるようです。今後も地域貢献と交流の双方を大事にした活動を進めていきたいです。

「ぼくらの長町黄援隊！2025」

太白区中央市民センター（拠点館）

※仙台 89ERS のチームカラーである黄色にちなんで「応援」を「黄援」と表記しています。

1 事業概要

長町に拠点を置く仙台 89ERS を黄援しながら、「長町を知って伝えて＝盛り上げよう！」ということを目標に活動しています。5年目となる今年は、長町周辺の小学5、6年生・中学生を中心とした12名の児童生徒が活動しています。

様々な活動を通じて、自分たちが暮らしている地域の良さを知り、地域への愛着を深めることがこの事業のポイントです。また、アイデアをかたちにしたり、発信したりすることを通して課題解決の力や周りの人と関わる力を育みます。



2 令和7年度の活動

隊員の話し合いから、地域を盛り上げるアイデアとして長町おすすめスポットクイズの実施と長町黄援隊オリジナル商品の作成を考えました。

～長町おすすめスポットクイズ～

クイズを通して、長町地域や仙台 89ERS の魅力を伝えて、地域を盛り上げられると考えました。また「バスケットのまち、長町！」を広く知ってもらうために、フリースローも取り入れたイベントを創り上げました。太白区中央市民センターの「ながまち交流フェスタ」で実施し、当日は多くの人々が来場し、参加者から「長町の歴史を知ることができた」、「仙台 89ERS の試合を観に行きたい。」などの声が聞かれました。

～長町黄援隊オリジナル商品～

「私たちが考えた商品で私たちの活動を知って一緒に長町を盛り上げてほしい。」という思いからオリジナルデザインのクッキーを作成しました。仙台 89ERS に着てほしいユニフォームをデザインし、クイズイベントに参加した先着60名にプレゼントしました。大変好評で、クイズイベントとともに参加者に長町や仙台 89ERS に興味を持ってもらうきっかけになりました。

3 成果・今後の展望

隊員のこどもたちは、長町を愛してやまない地域の方や長町のために働いている方と関わることで、自分たちの活動に対して誇らしく思うと同時に責任感も感じるようになりました。また、自分たちが考えた企画を実施したことで、行動力や課題解決の力が育ってきています。活動の振り返りからも、自分たちの計画が実現する状況に満足している様子が読み取れました。

一方、それが長町地域の盛り上がりとして実感できる状況にまでは至っていません。今後も、「長町を元気にする」という目標が実現されるように、取り組みを続けていく必要があります。



4 今後の展望

今後は、ホームゲームでの活動をあと2回計画しています。仙台 89ERS の黄援を通して、バスケットのまち長町をますます盛り上げていきたいです。また、取り組みや成果を広く発信し、隊員の自己有用感の高まりや今後の活動への意欲につなげていきたいです。



クイズラリーの問題を解説する隊員。参加者には、新たな気づきがありました。



フリースローイベントをすることでバスケットに興味を持ち、プロチームがある長町に目を向けてもらうようにしました。



どの活動にも隊員同士が協力して楽しく取り組んでいます。継続メンバーの声掛けがとても素晴らしく、新規メンバーも安心して活動しています。

「にしたがキッズ情報局 2025」

西多賀市民センター×太白区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

西多賀地域の小学校に通う5・6年生が、地域在住のフリーアナウンサーからアナウンス技術や取材方法などについて学びます。地域の方々への取材を通して、自分たちが住む地域について学習するとともに、関心を高めていきます。活動の成果は30分のFMラジオ番組にまとめて発信します。



2 令和7年度の活動



今年度は「変わりゆく西多賀～戦争から復興へ～」をテーマに、7月から小学生6名で活動してきました。

アナウンス研修では、講師の先生から発声の仕方や文章の読み方などを教えていただきました。

また、戦災復興記念館では、展示を通して戦争について学びました。アドバイザーから解説を聞いた後は、取材に向けて自分たちが質問を考えました。さらに、地域の方々への取材では、当時の生活の様子や西多賀地域の空襲、三神峯公園にあった仙台陸軍幼年学校などについてお聞きしました。

このような活動をまとめ、ラジオの原稿ができあがりました。そして、ラジオ番組の原稿を考えるときには、自分たちが通っている小学校を紹介するコーナーも取り入れ、みなさんを楽しんで聞いていただけるよう工夫しました。

10月15日に収録を終えたラジオ番組は、12月24日にエフエムたいはくで放送されました。

3 成果

子どもたちは、戦災復興記念館での学習や地域の方々への取材を通して、戦争について関心を持つことができました。戦争を体験された方からお話を聞いた際は、とても驚いた様子でした。

また、今年度も講座で学んだことを生かして10月25日の「西多賀ふれあいまつり」のステージ部門で司会を務めました。

4 今後の展望

西多賀地域は、歴史的な遺跡や名所、豊かな自然に恵まれた地域です。今後も、毎年のテーマに沿った取材の体験などを通して児童が地域の良さを見つけ、発信していく機会を提供していきます。

また、複数の小学校の児童が集まって活動することにより、協働性を高めることができるように支援していきます。



「茂庭台をもっと元気にし隊」

茂庭台市民センター×太白区中央市民センター（拠点館）

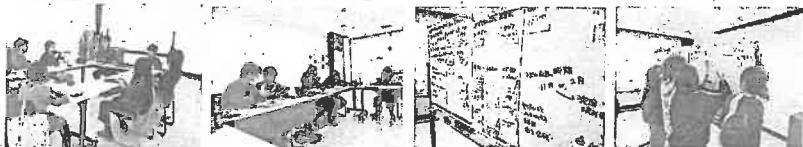
1 事業概要

少子高齢化や地域の担い手不足などの地域課題解決に向けた、地域のこどもたちを企画員（隊員）とした事業です。令和4年度からスタートした事業で、こどもならではの発想で地域を元気にし、みんなが楽しむことができる企画を考え、実施しています。月1〜2回程度、企画会議を行い、企画実施のための話し合いや準備作業を行っています。

2 令和7年度の活動

●企画会議

小学4年生から中学2年生のこどもたち9名が企画員（隊員）として活躍しています。学年・年齢を越えて、自由な意見を交わし、毎回賑やかな話し合いになっています。この企画会議を経て、令和7年度は2つの企画を実施することが決まりました。



●企画①「夏まつりでいっしょに遊ぼう！」

7月26日の地域の夏まつりに合わせて、実施した企画です。町内会連合会から「夏まつりの際に、こどもが楽しめる企画をしてほしい」との要望を受け、令和6年度から始まりました。今回は「くじ引き」、「射的」、「カジノ」、「スーパーボールすくい」、「綿あめの配付」の5つの遊びのコーナーを設けました。当日は、こどもから大人まで135名の来場があり、隊員も楽しみながら熱心に各コーナーの運営に取り組みました。



●企画②「ホラーハウス（おばけやしき）」

2月22日には、2つ目の企画として「ホラーハウス（おばけやしき）」を予定しています。ここ3年毎年実施しており、地域のこどもたちに大人気の企画です。企画会議で、今回は「学校・廃校」をテーマに内容を作ることが決まり、現在、準備を進めています。

3 成果・今後の展望

●成果

企画会議では、自分の意見やアイデアを発表したり、他の隊員の考えを聞いたりしながら、学年・年齢を越えて話し合う姿が見られます。「夏まつりでいっしょに遊ぼう！」では、町内会連合会と共催し、地域の夏まつりの盛り上げに貢献することができました。講座全体を通して、アイデアを実現する力や仲間と協力する力が育っています。

●今後の展望

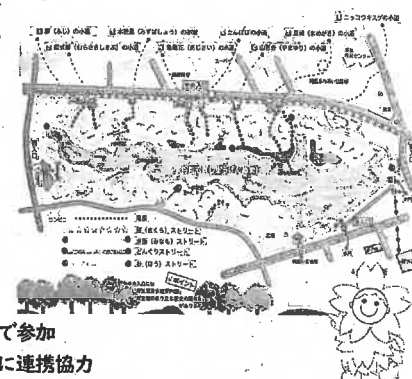
こどもの自由な発想から生まれた、地域を元気にするためのアイデアを実現できるように、今後も隊員と市民センターとで話し合いを進めていきます。また、隊員として参加したこどもたちが将来、地域をけん引する人材となることを期待しています。

「将監ふるさとづくりプロジェクト」

将監市民センター×泉区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

将監ふるさとづくりプロジェクトは、令和3年度市民企画講座として始まった事業です。入居から50年が経過した将監地域で高齢者世代から若い世代、こども達へ将監の歴史を継承し「ふるさと将監」の良いところを再認識してもらうことを目的に活動しています。令和6年度からは、3つの児童館まつりにキャラクター塗り絵缶バッジコーナーで参加し、将監小学校、将監西小学校3年生の将監沼を学ぶ総合学習にも連携協力しています。令和7年度は将監沼散策マップ改訂も行いました。



2 令和7年度の活動

①将監沼散策マップの改訂

②3つの児童館まつりにキャラクター塗り絵缶バッジコーナーで参加

③将監小学校、将監西小学校の3年生の将監沼を学ぶ総合学習に連携協力

①新しいマップの発表をしています



将監沼散策マップ改訂に合わせ将監沼の遊歩道に愛称を付ける企画を立てました。地域のおまつりや館内で投票してもらった結果を将監ふれあい公園オープニングイベントで発表しました。

②塗り絵缶バッジを作成中です



児童館・児童センターのおまつりに塗り絵缶バッジコーナーで参加しました。当日は、お子さんに加えて、おまつりに参加した大人にもバッジづくりに挑戦してもらいました。

③3年生と将監沼を散策中です



昨年度に引き続き将監小学校、将監西小学校の総合学習の時間に連携協力しました。新しい将監沼散策マップを使ってクイズを解きながらウォークラリーをしました。



3 成果・今後の展望

●成果

令和7年度将監沼の遊歩道に新しい愛称が誕生しました。児童館まつりでは、お子さんから大人まで、缶バッジづくりで楽しく交流することができました。また、企画員で考えた新しい散策マップと将監沼のクイズを使って、小学3年生の総合学習に連携協力しました。これらの活動を通して、地域に住むこどもから大人までの交流を促進し、ふるさと将監を大切に思う気持ちを育むことができました。

●今後の展望

身近な自然とふれあう機会を通して、「ふるさと」として自分たちの住む将監地域への愛着を一層深めてもらえるように、将監沼散策マップをさらに充実させるとともに、今後も児童館や学校と連携しながら活動を進めていきます。

「西公園ブランディングプロジェクト」

青葉区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

本事業は、若者が活動を通して、自己のものの見方や考え方を広げ、地域に対する関心を高めることができるよう支援し、将来の地域の担い手として自発的・主体的に行動できる「人づくり」をねらいとしています。リサーチ、コンセプト策定、戦略立案、そして最終的なプレゼンテーションまでの一連の流れを体験し、その成果を区長または市長に提案します。

現状分析

ブランド
コア設定

戦略設計
コミュニケーション
デザイン

仙台市
への提言

2 令和7年度の活動

2年間かけて市内6大学の学生と、ブランディングを専門としたデザイン会社である株式会社 BLUESODA、そして行政が連携し、若者を主体とした学習・実践活動を推進しています。学生は、西公園の利用実態や強みや弱みを調査・分析し、公園の新たな魅力づくりや発信方法を検討します。その過程で、株式会社 BLUESODA からは、企業で用いられている戦略検討の手法を駆使して公園利用の戦略について検討します。大学からは地域学習や教育的視点が提供され、行政は他団体との調整や実践の場を保障します。このように、産（企業）・学（大学）・官（行政）がそれぞれの強みを持ち寄り、若者が主体となって西公園の新たな価値を創出する取り組みが本プロジェクトの大きな特徴です。

3 成果と課題

来年度の仙台市への提案に向けて、今年は「現状分析」「ブランドコア設定」に取り組みました。実際に、西公園ユーザーへのインタビュー、3C 分析、SWOT 分析等、社会に役立つ専門的な手法で分析を行いました。大きな課題は特になく、「若者が来る西公園の実現」に向けて、若者自身が「自分事として」本気で考え、学んでいることです。また、このプロジェクトは、多くの大学関係者や西公園界隈の団体を巻き込んで進んでいることも成果の一つです。仙台市への提案にとどまらず、具体的施策への協働も目標に掲げています。



4 今後の展望 ～若者による情報発信 オウンドメディア「BEYOND THE TIME」～

若者事業に参加する学生たちが中心となって記事を作成し配信をしています。学生たちがテーマを決め企画書を作成し、インタビューアーへのアポイントも取りながら、記事作成をしています。西公園らしさ創出に向けて見えるものを作っています。実際の若者の視点や声に触れることができるメディアにもなりますので、ぜひご覧になっていただくと幸いです。

～オウンドメディア「THE MACHINE NISHI PARK」こちらから～



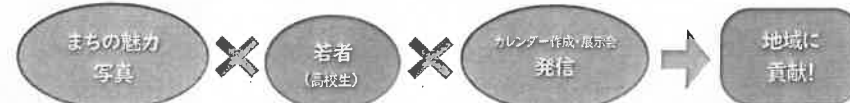
第1回 プロジェクト概要 第2回 若者から見た公園 第4回 フィールドワーク 第7回 課題定義 第8回 ブランドテーマ

「まいぷろ」

宮城野区中央市民センター（拠点館）× 高校生

1 事業概要

「まいぷろ」は、宮城野区中央市民センターが実施する若者社会参画型学習推進事業です。高校生が地域の魅力を写真で再発見し、発信することで、地域理解と愛着を深め、主体的な地域貢献意欲を育むことを目的としています。社会・地域の一員として、自発的・主体的に行動できる人づくりを目指します。



2 令和7年度の活動

市内の高校生11名が企画員となり、月1回の企画会を通じ活動しました。

- 地域の自然や文化を撮影し、カレンダー制作や SNS 発信を企画
- 撮影スポットの選定やバスツアーを高校生自身が計画
- プロカメラマンによる撮影講座を実施
- 写真展示会を市民センターで開催（予定）



活動を通じて、高校生は地域の魅力を自分の視点で再発見し、写真を通じて表現する力を養いました。地域の人々との交流や現地体験を重ねることで理解が深まり、身近な課題や魅力に気づききっかけとなりました。こうした経験は、高校生の考えや想いを形にし、地域とのつながりを強めるものです。

3 成果と課題

企画員の高校生に、まいぷろに参加して実感したことを聞いてみました。

成 果 ～成長できたこと～	課 題 ～こうしていきたいと思うこと～
・コミュニケーション能力 ・人前で話すことの抵抗が少し減った ・実際に目にしたこと、耳にしたことを言語化し、記事で表現できた ・自分の考えを伝える力がついたと思う	・この町のためになにかをしたいと思う。 ・より多くの地域住民と交流する機会を増やしたい ・写真と文章を組み合わせた発信力をさらに高めたい。 ・多くの人に感動を届けたい。 ・次年度はオンライン発信や動画制作にも挑戦したい

4 今後の展望

今後は、今回の取組を一過性のイベントに終わらせることなく、継続的な学びと交流の場として発展させていきたいと考えています。具体的には、高校生が自らテーマを設定し、地域の魅力や課題を掘り下げる活動を重ねることで、より深い地域理解を促します。

また、活動の過程で生まれた写真や意見を記録・共有し、地域の人々と対話する機会を設けることで、若者の視点を地域づくりに活かす仕組みを整えていきます。こうした取組を通じて、高校生が自分の考えや想いを表現し、それが地域に響く経験を積むことは、将来の社会参画への大きな一歩となります。着実に地域の魅力を再発見しながら、若者と地域がともに成長できる場を育てていくことを目指します。



「仙白縁プロジェクト」 若林区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

「若者の発想」をもとにして活動を計画します。たくさんの人と関わり、学び、仲間を増やし、自分も地域も笑顔になる活動を企画・実施します。今年度は、地域で行うイベントを秋と冬の2回開催することを目標に活動しました。活動を通して地域・社会貢献と自分たちのスキルアップを目指しました。

2 令和7年度の活動

① 若者が教える！プログラミング教室

南小泉小学校地域では、子供会が解散してしまい、こどもたちの交流する機会が減っています。そこで、こどもたちが楽しく交流できるイベントを企画し、11月15日（土）に若林区中央市民センターで「若者が教える！プログラミング教室」を開催しました。イベントの計画、チラシ作り、物品準備などをすべて自分たちで行いました。当日は、応募して参加した小学生が8名。当日の飛び入りで参加した小学生が11名の合計20名の参加でした。小学生は、初めは緊張した様子でしたが、次第に大学生とふれあう楽しさが広がり、パソコンと一緒に操作しながらプログラミングを学びゲームを作成しました。作成したゲームを使ってこどもたち同士が、点数を競ったり、対戦をしたりするなどの交流が生まれました。



【プログラミング教室の様子】



【図書館に来ていた小学生に教室へ案内】

② みんなで作ろう！巨大すごろく&昔あそび工作会

地域の子どもたちが交流するイベントを開催したいという思いから、2月1日（土）若林区中央市民センターのホールで実施する「みんなで作ろう！巨大すごろく&昔あそび工作会」の企画が進行中です。若林区に由来するすごろくを作成して、こどもたちと交流する予定です。



【平日の夕方に集まってイベントの企画中】

3 成果と課題

今年度、東北学院大学リテラシー教室所属のメンバーが加入したことにより、彼らが得意とする情報教育を地域のために生かすことができました。地域の要請で高齢者向け「スマホ教室」に若者が参加したり、小学生向けのプログラミング教室の中で「情報リテラシー」を教えたりすることで異世代交流が生まれました。高齢者やこどもたちが若者と交流することで笑顔になり、若者たちもイベントを実施した達成感を感じることができました。課題としては、新しく加入したメンバーと昨年度から活動していたメンバーとのスケジュールが合わず定例会の参加者が流動的になってしまったことです。今後はメンバー全員でイベントの企画や交流をしていきたいです。

4 今後の展望

今年度は、若林区内のこどもたちの交流の活性化のイベントを中心に企画しました。今後も地域課題を捉えた活動を続けます。また、活動を続けながら若林区の若者事業の魅力を発信し、多くの人たちが笑顔になれる事業を計画していきたいです。

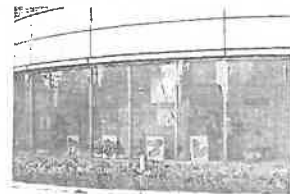


【高校生・大学生・社会人が一緒に活動中】

「わかぷれ」 若林区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

本事業は、高校生が主体となり、中学生や高校生が「同世代のつながりや小さなコミュニティを作る、楽しくいられる、自分らしくいられる場所、安心できる場所」を自分たちで作りたくと活動を始めました。「中高生の居場所づくり」を目指して活動を企画・実施しました。



【場所は若林区文化センター内わかぽーと】

2 令和7年度の活動

市内の高校生4人が集まり、7月、11月、1月に若林区文化センター内「わかぽーと」にて「わかぷれ」を実施しました。事前の打ち合わせでは、スペースをどのように活用していくか、準備しておくものは何か、広報はどのようにするのか、当日スタッフの役割はどうするかなど、企画員自ら話し合いを行い、準備を進めました。当日は企画員の高校生の他に、大学生ボランティアにも入ってもらい、参加者・スタッフが近い年代で活動ができるようにしました。



【参加者、企画員と一緒にゲーム】

7月に行った第1回は、場所を「読書コーナー」、「学習コーナー」、「飲食コーナー」、「ボード・カードゲームコーナー」など、用途に分けブースを作りました。はじめのうちは、用途に合わせて活動を行っていたのですが、最終的に17名の利用者全員がウレタンマットに座り、ゲームを行っていました。利用後のアンケートでもボードゲームやカードゲームが人気でした。



【学習コーナーも人気】

それを踏まえ第2回は、部屋全面をウレタンマット敷きに、靴を脱ぎ、座って活動ができるようにしました。第2回も、ボードゲームやカードゲームが人気で、参加者11名の事後アンケートも満足度が高かったです。

第3回目は、これまで人気だったボードゲーム・カードゲームを強化しようと、市内で活動している「こりれいず」さんを招き、たくさんのボードゲーム・カードゲームを準備しました。こちらも大人気で、13名の利用者が企画員と一緒に楽しい時間を過ごしました。

どの回でも、企画員が参加者と交流することで、初めて出会った参加者同士がゲームを一緒に楽しんでいる姿が印象的でした。今年度は3月にも活動を予定しており、準備を進めています。

3 成果と課題

高校生が企画を立て、自分たちで準備を進め実施できたことは、企画員の大きな力になったと考えます。また、同じ年代の中高生を集め、つながりを作ることができたことが成果です。利用者からも「次も参加したい。」「次はいつやるんですか。」「という声が多く聞かれたので、引き続き開催できるよう準備を進めていきたいです。

4 今後の展望

今年度は、企画を発足させた高校生4名が中心となって活動を行いました。活動に賛同するメンバーを集め、活動を継続させていきたいです。



【仙台若者チャレンジアワード2025で審査員特別賞を受賞しました】

「長町秋のフェスティバル 2025ーみんなが主役！長町広場！ー」

太白区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

「長町秋のフェスティバル（秋フェス）」は、「次代を担う人材の育成」を目的として、長町周辺で長年開催されてきたイベントです。昨年度からは、若い世代の人材育成に焦点を当て、高校生・大学生による企画運営に変更しました。



は、若い世代の人材育成に焦点を当て、高校生・大学生による企画運営に変更しました。

本事業を通して、参加する学生が自らの将来像を思い描いたり、社会で求められるコミュニケーション力、企画力などを育んだり、若者が自信をもって社会で活躍できるように成長することを目指しています。



2 令和7年度の活動

高校・大学から募った32名の企画員（高校生15名、大学生17名）で、6月から1回の定例会を行い、フェスティバルの企画内容や会場レイアウトを考えました。イベント直前には、ブース担当ごとに集まって計画を練ったり、必要なグッズを製作したりしました。初対面だった企画員同士も次第に交流が進み、気軽に意見を言い合えるようになりました。

イベント当日は、1000名を超える来場者があり、会場は大いに賑わいました。長町駅前広場には「魚つり」やパルーンアート、太白区中央市民センター内には、おけけ屋敷や工作コーナーなど、子どもたちが楽しめる様々なブースを準備しました。今年は、3か所のフォトスポットを製作し



たり、スタンプラリーのゴールで焼きマシユマロを提供したり、ブース以外の楽しみも充実させました。企画員だけで手が足りないところは、学生ボランティア28名と太白おやじネットワークの方々のお借りしました。イベントの最後には、来場者、関係者が揃って一斉にしゃぼん玉を飛ばし、会場全体の一体感が高まりました。



3 成果と課題

秋フェスの企画・準備・運営に携わり、大きなイベントをやり遂げたことは、自信と達成感に繋がりました。他校の学生やサポートしてくれた大人の方との関わりからは、実践的なコミュニケーション力が高まったように感じます。また、イベントを通して親子や地域住民、学生との間で交流した経験は、多世代交流の価値や地域づくりの面白さを知るきっかけにもなりました。

一方で、企画や準備の段階では、十分に思い至らなかった部分があり、当日の来場者への対応に改善すべき点がありました。また、全体を通して、市民センターの職員さんの力を借りた部分も多くありました。もっと学生主体で企画・準備を行うことで、企画力や運営力を高めていくことにも繋がると思います。これらの点は、次年度に改善し、ますます地域に愛されるイベントにしていきたいと思っています。



「ICP Izumi Community Project」

泉区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

泉区内に通学する大学生を中心に、地域の現状や課題を考え、学生の自由な発想で地域創造に向けた取り組みを企画・実施する事業です。地域課題の理解を深めるとともに、企画から運営まで主体的に関わることで、協働の意識や地域への関心を高め、社会の一員として自発的に行動できる力を育むことを目的としています。



2 令和7年度の活動



今年度は、昨年度から継続参加の2名と新規1名の計3名で活動しました。学生の「七北田公園を活用したい」という思いから、七北田公園活性化協議会や（一社）泉青年会議所と連携し、まちづくりに関する助言を受けました。そのつながりを活かし、10月には、七北田公園を会場とした夜間イベント「IZUMINATION」に学生ブースとして出展し、「牛乳パックランタン」と「光るプレスレット」のワークショップを実施しました。当日は3名の企画メンバーに加え、興味を持った学生5名が自主的にスタッフとして参加しました。

3 成果と課題

今年度は、計画から実施まで学生が主体的に取り組み、こどもから大人まで楽しめる企画を熱心に話し合いました。道具の準備やブースの運営、地域人材との連携、参加者との交流も積極的に行いました。企画当日は悪天候にもかかわらず、2日間で約100名の市民がワークショップに参加し、イベントを盛り上げることができました。また、（一社）泉区プラスの協力でFMいずみのラジオ番組に出演し、広報活動を行う貴重な経験を得ました。一方で、活動メンバーが少数であることやイベント準備に多くの時間を費やしたことが課題として残りました。



4 今後の展望



今後は、今年度の活動を振り返り、より多くの学生が気軽に参加できる仕組みづくりを進めます。広報の方法を工夫し、地域メディアやSNSを活用して情報発信を強化します。また、地域団体との連携をさらに深め、学生の自由な発想を活かした新しい企画を検討します。こうした取り組みを通じて、若者が地域づくりに主体的に関わり、地域課題の解決に向けた実践力を高めることを目指します。

「北山さんぽみち-過去から未来へ」

北山市民センター×青葉区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

時代による北山周辺の変化の様子を、住民の視点で掘り起こし、記憶を伝え、魅力あるまちづくりにつなげることを目標に、現在まで様々な場所を訪ねて学習しています。令和5年6月から7月にかけて、「リングの唄の謎」と「北山稜線めぐり」をテーマに講座を実施。参加者の中から市民企画員を募って活動を開始しました。令和6年3月には、「荒巻の思い出を辿る」令和7年4月には、「新坂通り探訪 坂と桜とお寺さん」という公開講座を企画実施し、その講座受講生からも新たな企画員を募り活動を行っています。



大学病院 見事な桜

2 令和7年度の活動



へくり沢散歩道を歩く

北山周辺の水跡をテーマにすることを企画会議で決め、へくり沢跡、四ツ谷用水跡、北山を流れた小川跡を一年かけて辿ることになりました。へくり沢は「へくり沢散歩道ウォークマップ」、四ツ谷用水は「四ツ谷用水再発見！デジタルマップ」、北山の小川は「昭和39年の仙台地図帖」を参考に散策しました。講師を頼まず、地図を片手に現在は暗渠になっている水跡を探し当てるのは、小さな冒険をしているようで、企画員同士の会話も弾みました。また、4月に新坂通を歩き学んだ成果を 北山交流まつりで展示発表し、地域の方たちに広めることができました。

3 成果と課題

成果： 北山交流まつり発表用に作成したパネルが来館者に評判を呼んだことから、他のセンターでも展示することを話合いで決めました。テーマが「新坂通」なので、最初は近い場所の市民センターを想定しましたが、それぞれの企画員が住んでいるところの各センターにも展示することになり、自分の住んでいる町で学習成果を発表できることになりました。

課題： 夏の暑さと冬の寒さが散策のネックとなっていて、企画会議で決定し散策するパターンを年度単位で考えるのは難しくなっており、短い春と秋に集中して散策できるように企画会議のスケジュールを考えていくのが今後の課題です。



北山交流まつり展示

4 今後の展望



熱のこもった話合い

今後も散策を通して地域資源の発見や確認をする企画員主体の学習を続けていきます。また、北山を流れる川跡のマップなどが今までに発行されていないようなので、今までの散策をもとに年代ごとの川マップ等を作成し、令和8年度の北山交流まつりや他市民センターへの展示発表を続けて、地域の魅力の数々を地域に発信していきます。

「台原森林公園をまるごと楽しもう」

旭ヶ丘市民センター×青葉区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

地域資源であり、市民憩いの場でもある台原森林公園。訪れる方も多く、窓口で地図を求められる事もありましたが、現状に合わない約20年前の地図しかありませんでした。そこで、台原森林公園を散策し、いずれは地図等の形でまとめたいと、令和4年度に講座がスタートしました。散策を中心に自然に関する講話、自然素材を使った工作等を開催しました。講座を通して、台原森林公園・自然の魅力を体感するとともに、環境について考えるきっかけともなりました。森林公園の見どころをまとめる中で「成果を発信したい」との意見が上がり、令和6年度に地図づくりに着手し、年度末に完成しました。



企画会の様子

2 令和7年度の活動



意見要望提出

令和7年度は5月～11月までの全6回の予定で講座をスタートしました。春の散策会に向けてルートや役割分担についての話し合いを行い、下見を実施しました。春の散策会当日は想定以上の雨であったため、急遽ルートを変更の上、時間を短縮して実施しましたが、雨ならではの魅力を伝える事ができました。また、令和6年度にまとめた、台原森林公園についての意見要望を青葉区公園課に伝える事もできました。秋の散策会に向けてルート案作成はできたのですが、近隣でクマの目撃情報が報道された事から安全に配慮し、2月に延期することとしました。

3 成果と課題

成果： 令和7年度より開催している散策会のチラシ、タイムテーブル等の作成を企画員が自主的に行っています。地図という形で学習成果を発表できた事が企画員の自信となり、意欲の向上へつながっていると考えています。

課題： 散策会及び事前準備等、企画員の負担が大きくなっていると感じています。企画員が無理なく楽しんで参加し学習できるよう、支援していきます。



令和7年度 春の散策会

4 今後の展望



企画員による準備体操

完成した地図は大変好評で、利用者や仙台市立旭ヶ丘小学校など多くの方に活用いただいています。また、地図を活用した散策会も定員以上の申込みがあり、好評です。令和8年度も、継続して地図を活用した散策を開催していく予定です。また、地図のさらなる活用を目指し、地図をPRしていきたいと考えています。地図・講座への参加を通し、より多くの人に台原森林公園の魅力を感じてもらいたいです。

「防災デイクャンプ2025 in 通町小」

柏木市民センター×青葉区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

小学生の親子が協力しながら、災害時に役立つ知識を習得し、技能を高め合い、いざという時の判断力や行動力を育むこと、また親子の絆をいっそう深める機会を提供することを目的として「防災デイクャンプ2025 in 通町小」の開催に向けて取り組んできました。

令和6年度と同様に東北福祉大学学生サークル「PASS」に協力を依頼し、「防災レンジャー」の登場を盛り込んだストーリー仕立ての内容で、こどもたちに防災意識を自然と身に付けてもらえる構成としました。



企画会の様子

2 令和7年度の活動



お宝さがし用台紙

7月から12月までに振り返りを含め計5回開催した企画会では、事業の目的や実施に向けた認識を共有しながら議論を重ねました。そこから、「防災・防犯」を意識しつつ、親子でいくつかのミッションに挑戦しながら、防災を楽しく体験的に学べる構成としたお楽しみイベント「暗い校舎でお宝さがし」というミッションを企画・新設しました。

※左の写真は「暗い校舎でお宝さがし」で使用する台紙です。

講座は11月8日（土）15時～18時、通町小を会場とし、小学生親子9組、10名が5つの防災ミッションにチャレンジする予定でした。しかしながら、開催日1週間前にインフルエンザなどの影響により学校閉鎖となったことから、令和7年度の開催はやむなく中止となりました。

3 成果と課題

成果： 通町サポーターズ、通町小学校、PASS との協働的な企画・運営を通して、目的等を明確化したことにより認識のズレが埋まり、前向きな意見交換ができたと感じました。

また、企画会を通して顔の見える関係を構築したことにより、新たに地元消防団とのつながりを持つことができました。

課題： PTAの企画員募集が不安定であることから、町内会や防犯協会など地域の方々の巻き込んでいくことが当面の課題と考えています。

4 今後の展望

振り返りの企画会で、令和8年度は令和7年度に企画・決定したものと同じ内容とし、時期については他の行事や協力いただく団体のスケジュールを確認しながら早期（11月→6月）の開催を検討していくこととしました。

今後もPTA、小学校、地域の方々と連携していき、親子が楽しめる防災減災学習を通して家庭単位での防災力を高めることにより、地域全体の防災意識向上を図ることにつながるよう取り組んでまいります。



ペットボトルランタン完成イメージ

「広がれ！スズムシの輪」^{りん} 岩切市民センター×宮城野区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

岩切市民センターを活動拠点とする「すずむしの里づくり実行委員会」は、仙台市の虫「スズムシ」を普及し、自生できる自然環境の大切さを多くの市民に啓発してきました。具体的には、飼育、出前授業、配布交換会、実験放虫、広報活動等の多岐にわたります。令和7年度で31年目となる活動ですが、高齢化が進み、次代の担い手の育成が急務となっています。そこで、すずむしの里づくり実行委員会を中心とした企画員と一般の方で、スズムシを知り、親しみ、楽しむ中で、参加者同士の輪を広げ、担い手の発掘・育成へとつなぐことを目的に講座を展開しました。



リンリンちゃん
すずむしの里づくり実行委員会
マスコットキャラクター

2 令和7年度の活動



岩切市民センターでは、館内で約10万匹のスズムシを飼育しています。令和7年度は、岩切市民センターが大規模修繕工事の期間に入るため、秋以降はスズムシを飼育することができなくなりました。この状況を見据え、企画員たちは、スズムシの里親制度を考えました。各家庭でスズムシを育て、その育てたスズムシを事業のために提供していただく制度です。夏の配布交換会に来場した方々に里親制度の趣旨説明と募集

を行ったところ、34の家庭から里親登録にご協力いただきました。秋には、里親同士の情報交換を目的とした「スズムシカフェ」も開催しました。また、10月の岩切市民まつりでは、はじめての試みとして、スズムシの羽をモチーフにしたアクセサリーを作る体験コーナーを設置しました。当日はこどもたちから高齢者まで多くの人がたづねにぎわいました。

3 成果と課題

令和7年度、スズムシの里親制度をスタートできたことは大きな成果であり、新たなスズムシ愛好家同士のつながりを創出することができました。さらに、スズムシカフェの開催により、横のつながりを強固にすることができました。岩切市民まつりでの体験コーナーでは、スズムシの魅力を新たな視点から発信することができ、参加者からはとても好評でした。これからもスズムシの輪を広げていくためには、新たな活動の枠組みづくり、楽しんで講座に参画してもらうきっかけづくりが大切と考えています。



4 今後の展望



メンバーの高齢化が進むすずむしの里づくり実行委員会が、これからも持続可能な組織として維持され、今後も仙台市の虫「スズムシ」の普及活動に継続して取り組むことができるような仕組みを考えていく必要があります。令和7年度の活動を通してできた「つながり」を強化していくとともに若い世代の人材が積極的にスズムシ事業に関われるような環境を整えていきたいと考えます。

「高砂の魅力再発見プロジェクト」

高砂市民センター×宮城野区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

高砂地区は、かつて米や魚の運送で栄えた緑豊かな田園地帯であり、古い歴史を持つ地域です。数々の遺跡も発掘されています。しかし、仙台新港の建設や都市整備計画により、JRの駅周辺では都市化が進む一方、海沿いの地域は東日本大震災によってまちの風景が大きく変わりました。そのため、現在では「被災地」として語られることが多い地域となっています。こうした歴史や背景を踏まえつつ、高砂地区が持つ魅力を地域住民とともに再発見し、その価値を広く発信していくことを目指しています。



2 令和7年度の活動



5月に、岡田地区で仙台市の「とれたて仙台プロジェクト」に参加している方の取材をしました。朝に収穫した農産物をその日のうちに新鮮なものを市民の食卓へお届けできるよう、毎日丁寧に畑の世話をしているとのことでした。取材の成果は、今後MAP作りに生かします。

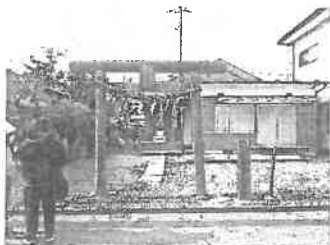
現在、令和8年3月24日（水）～29日（日）電力ビル1階アクアホールでの写真展「高砂に生きる～震災のマエとアト～」に向けて準備を重ねているところです。11月には、福田町周辺を歩きながら風景写真を撮影しました。

3 成果と課題

令和7年度は高砂市民センターが大規模修繕工事のため使えず、思うように講座を開催することができませんでした。しかし、そんな中でもまち歩きを実施することができました。また、これまでに撮りためた写真や、地域の方から提供された写真などを活用して写真展を開催することになりました。高砂の変遷や魅力を伝え、見つめ直す良い機会になると考えています。



4 今後の展望



令和8年度は「高砂の魅力再発見プロジェクト」の最終目標である「高砂のお役立ちMAP」の作成に取り組んでいく予定です。どのようなマップにするのか、対象者は誰にするのかなど今後議論を重ねて内容を検討していく予定です。イラストなどをふんだんに使い、視覚的に分かりやすい地図作りを目指しています。

「東口ゆうえんち」

榴ヶ岡市民センター×宮城野区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

榴ヶ岡地区はこどもが多く、こどもたちが安心安全に遊ぶことのできる場が求められています。本事業は、家庭や学校では経験できない遊びを通して、学校や学年の違うこどもたち同士が一堂に楽しみ、こどもたちとボランティアスタッフの異世代交流を行うことで、こどもたちの「人間関係を築く力」を養うことを目指して開催しています。

講座として15年以上の歴史があり、令和3年度から宮城野区中央市民センターと共催で実施しています。



2 令和7年度の活動



学生と社会人の企画員が、こどもたちが安心安全に楽しめる遊びと学びを考えながら企画運営を行っています。令和7年度は12月までに企画会を8回、イベントを3回開催しました。

【東口緑日 6月22日（日）】

オリジナル通貨「イースト」を使って企画員手作りの遊びを楽しむ夏のイベント、「東口緑日」を開催しました。買い物やお金の勉強をしながらお祭り気分を味わえる人気の企画です。

【ウォーターバトル 8月24日（日）】

コロナ禍以来、久しぶりに外遊びのイベント、「ウォーターバトル」を開催しました。参加者それぞれが持ち込んだペットボトルで水鉄砲を作り相手の持っているボイを目掛けて、チームに分かれて本気のバトル！暑い夏にちょうどよい企画でした。

【こうさくえすと 11月23日（日）】

工作とクエストの要素を組み合わせた令和7年度の新企画「こうさくえすと」を開催しました。市民センター全館を使って工作やミッションをクリアしながら宝箱を探すというイベントです。企画員がから考えた全てのミッションクリアを目指して頑張るこどもたちの姿が見られました。

3 成果と課題

令和7年度は昨年度のアンケートを元に新企画「こうさくえすと」を発案し地域や参加者の特徴や希望に沿ったイベントを開催しました。また榴ヶ岡市民センターまつりや、榴ヶ岡かいわい学びのコミュニティづくり推進委員会が主催する、つつじがおかワイワイ冬まつりへの参加を通して東口ゆうえんちをより地域に広めることができました。今後は新規企画員の増員や定着に向けてどう広報していくかが課題となっています。



4 今後の展望



2月には恒例の「真冬のおばけやしき」を開催する予定です。企画員の経験とアイデアを活かし、学校や家庭では経験できない遊びの場、学年の違うこどもたち同士や企画員との異世代間交流の場を提供していくことが期待されます。令和8年度もこどもたちを楽しんでもらえる企画を考え、事業を継続していく予定です。

「市民企画会議」「日本全国幸町プロジェクト」 ～# 幸町でつながろう!～

幸町市民センター×宮城野区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

「幸せな町になってほしい」との願いが込められた「幸町」の地域を知り、他地域の「幸町」とつながるために令和5年度から会議を重ね活動してきました。令和7年度はガイドマップ等を活用し、地域の魅力を発信することを通じて地域活性化を目指しています。

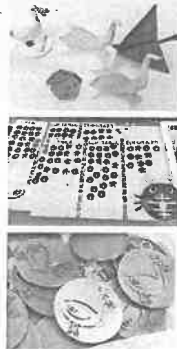


2 令和7年度の活動



今年度は、令和6年度から制作を始めたガイドマップを片手に、まち歩きからスタートしました。枳江の森や与兵衛沼などの自然あふれるエリアと、市街地エリアを2日に分けて散策しました。

また、市民センターまつりに参加して、「よへえちゃん」と名前をつけた白鳥のキャラクターやてんとう虫のキャラクターの折り紙のブースを担当しました。てんとう虫の名前はシール



による投票を行い、幸町に関するアンケートは専用フォームを作成して実施しました。来場者には、3D プリンターで作製した金・銀・銅のメダルをプレゼント。その他、野生動物やドローンなどの映像放映も行いました。

SNSの発信を目指し、企画員で勉強会を行いました。その結果、Instagramで活動を発信することができ、作成したロゴマークや、市民センターまつりの活動の様子をアップロードしています。

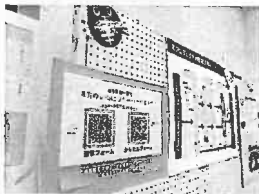
3 成果と課題



幸町の魅力をまとめたガイドマップを完成させることができました。今後、講座や学校の授業などでの活用を目指しています。

また、リーダー・副リーダー・補佐を決めたり、「学ぶ」「遊ぶ」「叫ぶ」の3つの部会を作ったりするなど、自主的な活動ができています。グループ内の規約や、外部へSNSを発信するときの運用ポリシーなども独自に作成して臨んでいます。一方、3つの部会については、まだ具体的な活動が定まっておらず、今後の活動に期待しています。

4 今後の展望



今年度で講座がスタートして3年目、大人事業としては2年目となります。カルタや紙芝居づくりにも挑戦したいなど、メンバーは意欲に満ちています。「笑顔あふれる魅力的なまち幸町」を目指して地域活性化への取組を、今後3年くらいかけて活動していく予定です。地道な関係づくりを継続しながら、SNS発信を強化して、他地域の「幸町」との交流も実現させるのが夢です。

「地域連携宮城県準絶滅危惧種ミズアオイ生息地田子プロジェクト」

田子市民センター×宮城野区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

東日本大震災の津波によって被害を受けた沿岸域の周辺地域では、生育環境が悪化して姿を消していた国の準絶滅危惧種であるミズアオイが復活した場所が報告されています。田子地域内でも、令和5年度田子の魅力発信広報部の企画講座の下見の際に田子地域を流れる七北田川沿岸にミズアオイの生息場所を発見しました。しかし、それらも大雨などの災害により生育環境がなくなってしまう状況にあります。



地域にある田子小学校、田子小学校PTAと協力し、地域住民とともにミズアオイを育てる学習を通して、地域の環境保全を考えるきっかけとします。

2 令和7年度の活動



4月から7月は、前年に育てた株から出た芽を新たに株分けし、PTAの方々や児童・地域のボランティアとともに勉強会を行いながら育てました。8月には、高砂小学校・宮城野高等学校・蒲生バイオマス発電所のビオトープなどへ田子小学校で育てたミズアオイの花を持っていきました。夏休みには、PTAと共催したミズアオイの勉強会と「花盛りの陽だまりの池」観察会を実施しました。10月には近隣の方々や梅田川の環境調査を行い、地域の方に在来種としてのミズアオイを知っていただく機会ができました。

3 成果と課題

田子地域に自生していた宮城県準絶滅危惧種のミズアオイをテーマに、田子小学校PTAと地域の人々が自分たちの住む地域の自然環境について学ぶ機会となりました。田子と周辺地域のミズアオイ生育地調査を通して、近隣町内会と地域河川環境保護活動のネットワークができる可能性が出てきました。ミズアオイは自生する環境によって、生育場所を移動します。また、水田雑草として農業従事者には嫌われている植物でもあります。ミズアオイの学習をきっかけに、地域住民が地域の自然環境を見つめ直すとともに、周りの環境に配慮した保護活動を続けていくことが課題となります。



4 今後の展望



田子地域のミズアオイは震災遺産と言われる貴重な植物です。自生するミズアオイの大きなコロニーが、宮城野区仙石の住宅地の中の梅田川や最初に自生地が見つかった上田子付近の七北田川にあります。場所や規模の変化はありますが、毎年8月から9月末まで青い花を咲かせます。東日本大震災の津波被害を受けた人々を支援し、また被災者の移住先として新しい地域が形成されている田子にとって、ミズアオイは象徴的な植物ではないでしょうか。それを題材として地域の人々が専門家とともに環境学習や保全活動を続けていけるよう支援をしていきます。

「市民企画講座「Nanaフェス！」」

七郷市民センター×若林区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

七郷地域は、地下鉄東西線の開通や土地区画整理事業、東日本大震災の津波被害と復興による街並みの変化により新たな住民の流入等が多く、市民企画会議において地域の新旧住民同士の関係の希薄化や交流不足、地域活動の活動停滞など地域コミュニティ形成に関わる様々な課題が上がりました。そこで、令和6年度は「Nana フェス！～Nana フェス 1st 仮装舞踏会～」と題し、コロナ禍以降休止している地域学区区民運動会の要素と仮装を取り入れ、老若男女が楽しみながら交流を持つ講座を、地域の様々な団体等と連携を持ちながら実施しました。



2 令和7年度の活動



令和7年度は新たに2名が加わり8名となった市民企画員が、令和7年4月より地域情報や意見の交換を重ね、音楽やダンス、光をテーマにした講座を企画することとなりました。

市民企画員は社会学級や体育振興会、民生委員など、地域活動の担い手も多く、それぞれの所属団体の強みや技術、人脈を生かしながら、新たな連携先と地域ネットワークを築き上げ、多様な視点を取り入れた講座の企画運営にあたりました。

3 成果と課題

6回の企画会議と運営準備を経て、12月6日（土）に「Nana フェス！～七郷黄昏光響曲（シンフォニー）～」を開催しました。体験講座を経た大人・若者・子ども団体や、普段から市民センターを拠点に活動している団体が、取組の成果を地域に向けて発信し、当日は250名を超える参加者が集いました。事前に地域のみなさんに作成してもらったイルミネーションのアート展示が会場をやさしい光で包み込み、学習を通じた喜びや一体感を体験できる場は、学習意欲向上や人とのつながりを深める機会の提供となりました。



4 今後の展望



今回の企画を通じて、開催後も活動への参画意欲の向上につながり持続可能な地域づくりの一翼を担えました。今後は、さらに地域ネットワークの輪を広げ、新たな価値や活力を生み出しながら、変わりゆく七郷の地域事情とニーズを反映させ、協働のまちづくりへの貢献が展望されます。

「わたしのふるさとプロジェクト」

六郷市民センター×若林区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

六郷東部地域は、人々のつながりが強く、祭りや運動会などの行事では、老若男女が地域を挙げて参加し、絆を深めてきました。

しかし、東日本大震災により壊滅的な被害を受けました。転居を余儀なくされた方もおり、かつてのにぎわいは消え、人々のつながりは弱まりました。そこで、平成26年、六郷東部地域に暮らしている人やゆかりのある人、思いを寄せる人が「わたしのふるさとプロジェクト」を立ち上げ、六郷地域の人々の交流やにぎわい再生を願い活動しています。



2 令和7年度の活動



毎月の定例会では、地域情報を活発に交換・共有し、交流やにぎわい再生の実現に向けたイベント運営について議論を重ねています。7月には、かつて東六郷小学校で30年以上にわたり続いた夏祭りの伝統を受け継ぎ、「来てけさいん六郷東部夏祭り」を開催しました。世代を問わず400名以上の方々が集まり、地域伝統を継承し、交流を深める素晴らしい場となりました。2月には「第11回ふるさとにつどう鎮魂の花火」を開催予定です。六郷東部の良さが伝わる場となるよう準備を進めています。

3 成果と課題

夏祭りは、メンバー各自のスキルや人脈を最大限に発揮しました。その結果、今年度は開催目的に賛同する20以上の団体に加え消防車展示やアクアイグニス移動販売などの参加もあり、地域の輪が広がっています。夏祭りならではの屋台や地域に伝わる六郷くろしお太鼓、ふるさと音頭や、すずめ踊りといった演目などで地域の良さも感じることができました。さらに、大勢の中高生・大学生がボランティアとして参加する姿には、地域の未来への希望を感じました。



今後の課題は、この活動を地域外や、震災当時を知らない若年世代にも認知をさらに広げていくことです。そのためにSNSでの情報発信や、地域の学校への伝承活動など、「伝えること」を意識した活動を積極的に取り入れていきたいです。

4 今後の展望



今後の展望については、3点あげられると考えます。

- ①震災の記憶の伝承活動を通じプロジェクトの認知と仲間を広げる。
- ②より多くの地域住民や若年世代を巻き込みふるさと再生に繋げる。
- ③六郷地域をつなげ、次世代のリーダーとして地域活動を牽引する団体に成長する。

わたしのふるさとプロジェクトは、継続した活動の成果もあり、六郷地域で認知され、地域全体が応援し協力する姿勢が見られます。市民センターとしては、プロジェクトのさらなる発展と成長のため、より円滑な運営体制づくりをはじめとして、メンバーの思いを生かせるように活動のサポートを続けていきます。

【予告】第11回鎮魂の花火 令和8年2月28日（土）於：東六郷コミュニティ広場



「集まれ！わんぱくキッズ～お父さん出番です～」

沖野市民センター×若林区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

小学生や小学生親子対象に様々な催しを開催してきた沖野地域の2つの「おやじの会」が合体し、令和7年度から、地域のこどもたちから公募した新たな名称「沖野団dism」で活動しています。恒例の「スポーツ鬼ごっこ大会」「ソフトドッジボール大会」に加え、令和6年度に復活を目指して開催した「こども相撲」など、市民センターと一緒に企画・運営し、地域活性化に貢献しています。また、沖野地区市民まつりでのこども遊びコーナーの出店など、地域行事にも積極的に参加しています。

2 令和7年度の活動

●スポーツ鬼ごっこ大会（6月21日開催）

初めてスポーツおにごっこを体験する参加者も多かったが、すぐにゲームに慣れて盛り上がり、大人チームとの対戦で締めくくりました。



●どすこい！沖野ちゃんこ相撲～ちゃんこ相撲を体験しよう～（11月24日開催）

昨年度に引き続き、宮城県農業高等学校相撲部、東北大学学生会相撲部の学生力士のみなさんにご協力いただきました。今回は、取り組み観戦の後、参加者挑戦として、まわしを付けたこどもたちが学生力士と取組を行いました。また、会場にいる大人も学生力士に挑戦し、その強さを体感しました。その後は会場を移動して参加者全員でちゃんこ鍋をいただきました。



●ソフトドッジボール大会（12月6日開催）

こどもチーム同士の対戦、大人チームとの対戦を繰り広げ、応援に来ていた保護者の皆さん、地域の皆さんも一緒に盛り上がりました。



3 成果・今後の展望

●成果



沖野地区では、市民センターとおやじの会（沖野団dism）が毎年開催する事業が恒例となっていて、参加者が楽しみにしてくれています。そのため、安定して参加申し込みがあります。また、参加者だけではなく、保護者や地域の方々も気軽に応援、見学などに参加しているため、異年齢交流に繋がっています。

●今後の展望

統一したおやじの会「沖野団dism」の会の活性化を図りながら、自立して活動していけるように継続して支援することで高齢化している町内会などの次代を担う人材となることを望みます。また、相撲など、幅広い年齢の方々が参加できるイベントを開催し、異年齢交流を通して、会の認知度を上げ、より広く地域と関わる活動に発展していくことが望ましいと考えます。「沖野団dism」の目的でもある「メンバー増」に結び付くように、市民センターではアイデアの提供、広報、事業の開催と共に、会の周知にも努めていきたいと思ひます。

「子どもイベントを考えよう」

～ワイワイ！こどもまつり～

若林区中央市民センター（地区館）×若林区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

市民企画会議「子どもイベントを考えよう」は、住民や地域団体が、こどもたちに遊びと交流の場を提供しようと、令和5年度から会議を開催しています。地域や地域団体と協力して、情報共有や相互理解を図りながら、幅広く地域活動に携わる人材の発掘や育成を目指しています。

令和6年度からは、近隣の学校からも協力をいただき、ネットワークが広がり、地域との連携も深まっています。



2 令和7年度の活動



10月11日（土）に「ワイワイ！こどもまつり」を開催しました。南小泉パバネット（おやじの会）、町内会長、地域の小学校や児童館などで活動している企画員のアイデアを生かして、雑紙ひこうき・牛乳パックミニ工作・ニュースポーツ体験など多様な遊びコーナーを設けました。入念な事前準備や司会進行など積極的取り組み、企画員のスキルアップにもつながりました。

当日は、約130人の親子が来場し、こどもたちは会場を自由に走りまわったり、親子と一緒に工作や遊びを楽しんだりしていました。スタッフには、近隣の高校と中学校から26名のボランティアにも協力いただき、様々な異世代間交流が広がりました。

3 成果と課題

町内会や地域の保育所・幼稚園の広報協力、地下鉄情報ボードの活用で、未就学児から小学生まで幅広い世代の参加があり、イベントは大盛況でした。継続を希望する声も多くいただき、次年度にむけての企画員の意欲向上につながりました。また、近隣の学校との連携がより深まり参加した学生たちにとっても大変貴重な経験となったようです。

企画員募集については、気軽に応募できる応募フォーム付きチラシを、当日来場者に配布しました。引き続き、地域団体やサークルなど地域で活躍する若い世代に企画員として協力していただけるよう働きかけしていきます。



4 今後の展望

地域住民や団体とイベントを企画・運営していくことで、地域のネットワーク形成を強化し、更なる地域人材の発掘に努めていきます。また、こどもも大人も楽しめる地域密着型のイベントを開催することで、活気あふれるコミュニティの醸成、地域活性化に継続的に寄与していきたいと思ひています。



「太白おやじネットワーク事業」

太白区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

「太白おやじネットワーク事業」は、地域課題の解決に向けた事業を企画し、新たなネットワークを構築と、地域づくりに貢献できる人材を発掘・育成することをねらいとして活動しています。例年、各団体間の情報交換に加え、市内の小学校に在籍する児童とその保護者を対象としたイベント等を企画・実践しています。

【活動団体】

TNO（富沢・長町おやじの会）、NYO（西中田・柳生おやじの会）

八木山おやG7（八木山小・八木山南小・金剛沢小・芦口小・向山小おやじの会）

2 令和7年度の活動

TNO、NYO

コロナ禍が明け、太白区のおやじの会は各地区で大規模イベントを積極的に開催し、地域活動が活発化しています。今年度はメンバーのスキルアップを目的に情報交換会を実施し、事例共有や意見交換を行いました。さらに、ネットワーク拡充と地域の盛り上がりを目指し、来年度は「網取り」の復活を予定しています。11月30日にプレイベントを開催し、盛況のうちに終了しました。参加者間の新たな交流が生まれ、来年度への期待が高まっています。



八木山おやG7（八木山市民センター共催）

八木山中学校へ進学することも同志士の交流や、将来の地域人財の育成という共通の目標を掲げ、5つの小学校のおやじの会と八木山市民センター、太白区中央市民センターが協働して10月19日に「八木山おやG7チャレンジ企画」を開催しました。学校が異なる参加者同志がチームになり、軽トラ綱引きやスポーツチャンバラ、担架リレー、ろ過競争など、おやじ達による趣向を凝らした種目で記録を競うイベントを行い、参加者同志の交流を生み出しました。



3 成果と課題

各地域でおやじの会と各地区館が協働し、地域住民の交流の機会を創出することができました。また、太白区中央市民センターを起点におやじの会同志の情報交換が行われたことで、互いの活動から多くのことを学び合うことができたようです。今後は、各地域において現役世代のおやじの会員を増やすことが課題です。拠点館としても、主に広報の面などで支援していきたいと思っています。

4 今後の展望

今後は、参加団体を少しずつ増やし「太白おやじネットワーク」を拡充していきたいです。各地区のおやじの会の活動状況をリサーチし、積極的に取材や広報を行っていききたいと思います。また、おやじの会に向けた広報のみならず、各地区館や小中学校とおやじの会の連携・協働のあり方を具体的に提案していけるよう、持続可能で魅力的な事業運営のサンプルを立案したいと考えています。



「みんなの広場プロジェクト」

茂庭台市民センター×太白区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

茂庭台地区の中心にある市民センター前の広場に、地域住民が気軽に集まって交流し、「顔の見える関係」を深めることを目標に、企画員を中心に様々な事業を企画・実施しています。

2 令和7年度の活動

7月：「盆踊り練習会」

12月：「音楽と灯りのもにわだいフェス」

（第1部：コンサート、第2部ライトアップ&たき火）

2月：「天空の広場 風あげ大会」

【音楽と灯りのもにわだいフェス】12月20日（土曜日）15時00分～18時30分

■第1部：コンサート

今回はヴァイオリニストの鹿嶋静さんに加え、ピアニストのスティーブ・スモールさん（NZ）が、素晴らしい演奏を披露してくださいました。お二人は前日、茂庭台小中で、「太白区地域連携ネットワーク事業」による演奏とキャリアトークを行い、児童生徒と交流を深めました。児童館ハンドベル隊は昨年に続く2回目の出演で、一生懸命演奏することもたちに大きな拍手が送られました。最後のカントリーダンスでは、会場の皆さんも踊りに加わり、大いに盛り上がりしました。

■第2部：ライトアップ&たき火

これまでのペットボトルランタンに加え、新たにペットボトルツリー、カラフルなイルミネーションライトで広場をライトアップしました。来場者は灯りを眺めながら会話をしたり、写真撮影をしたりして、楽しんでいました。また、たき火を2か所に増やし、昨年よりも多くの人が、火を囲んで交流していました。



企画会議を年間6回実施。

↓ランタン制作の様子



3 成果と課題

「音楽と灯りのもにわだいフェス」は、今年で5回目を迎えました。少しずつ形を変えながら継続して取り組んできたことで、地域のイベントとして定着してきており、今年度はこれまで最高の250名を超える来場者がありました。幅広い年代が集い、「広場を活用して顔が見える関係を深める」という目標が達成されました。一方で、企画員が減少しているため、若い世代や現役世代にプロジェクトをアピールし、新規メンバーを増やすことが課題となっています。

4 今後の展望

企画員の思いやアイデアを形にし、主体的な取組みを継続していけるよう支援していきたいと考えています。特に、若い世代とのつながりを持つために「茂庭台をもっと元気にし隊」（小学生～高校生の企画講座）との連携などを視野に、活動を発展できるよう働きかけていきたいと思っています。

「パワフルとみざわネットワーク」

富沢市民センター×太白区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

富沢地域は宅地開発などの影響で人口増が続いています。転入者も多く、子育て世代が特に多いのが特徴と言えます。このような特徴から、市民センターでは町内会と子育て世代が協働して活動することを通して、異年齢や団体同士の交流及び地域活性化を推進する事業「パワフルとみざわネットワーク」に取り組んでいます。本事業は、地域資源を活用した行事を定着させることで、住民同士の交流が深まり、顔の見える関係づくりが促されることを目的に掲げています。加えて、地域人材の発掘・育成にも力を入れています。イベントは、地域資源「筑川」にちなみ「ざる川フェスティバル」（略称：ざるフェス）と名付け、平成28年から開催しています。



2 令和7年度の活動



「ざるフェス」は「郷土愛を育む」「地域交流の輪を広げる」を目的に開催しています。今年度は筑川沿岸6町内会、TNO（富沢・長町おやじの会地域ネットワーク推進委員会）、各校の社会学級の代表者を中心となっている「実行委員会」に、富沢中学校の有志による「中学生実行委員会」が加わり、企画運営に当たりました。内容は、ステージ発表・緑日・屋台・筑川スナップ写真・炊き出し訓練（芋煮）・中学生実行委員会企画の「お菓子つり」「水ヨーヨーつり」等を実施しました。今年度は雨の中での開催となり、会場は市民センターになりましたが、雨の中にも関わらず1,200人を超える来場者が楽しんでいました。

3 成果と課題

地域住民や中学生が中心になって地域イベントを企画運営したことは、地域ネットワークの拡充と顔の見える関係づくりにつながったと感じました。今回、荒天にも関わらず地域の方々が多く来場してくれたことは、「ざるフェス」が地域に根付いてきた証とも言えます。今後も地域活性化の促進に向けて、課題となっている人材不足の解消に向けた取り組みを進めていく予定です。



4 今後の展望



ざるフェスは地域行事として、富沢地域に広く認知されていますが、2027年には節目と言える10回目を迎えます。残り2年で課題としている人材不足の解消やイベントによる地域活性化に向けて、多くの方々と創意工夫を凝らしながら発展していけるように努めるとともに、継続性の高い体制づくりにも取り組みます。

また、継続可能な行事として「ざるフェス」だけでなく「パワフルとみざわネットワーク」で様々な可能性を検討していきたいと考えています。

「楽元の森プロジェクト」

山田市民センター×太田区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

令和2年度に立ち上げられた自主運営組織「楽元の森運営委員会」と連携しながら、地域資源である楽元の森を整備・活用する事業の企画運営を行っています。人材の発掘や育成・スキルアップを図り、地域の活性化につながる人づくりを目指します。活動を通して、世代間交流を深め、人づくりにつなげていきます。



2 令和7年度の活動

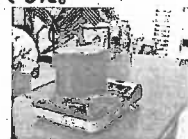
6月7日「親子で巣箱をつくろう！」

※楽元の森に生息している野鳥や動物の講話と、森に取り付けていた巣箱の観察、巣箱作りなどを体験しました。完成した巣箱はそれぞれ持ち帰りました。



9月20日「楽元の森でディキャンプ」

※雨天のため、会場を山田市民センターに変更しました。テント設営や飯ごう炊飯、焼きマッシュマロ、ポップコーン作りをしました。また、焼き板作りも行われ、盛りだくさんの内容でした。



11月15日「ピカボードを作ろう！」

※ボードにLEDライトを挿すとピカッと光るピカボード。今年のデザインは「交通安全」と「詐欺注意」です。講座「光と音楽のセレモニー」での点灯式の後は、来年の3月まで山田交番に展示されます。



11月22日「光と音楽のセレモニー」

※講座「ピカボードを作ろう！」で作ったピカボードの点灯式や楽元の森の紹介、ピカボードやランタンが光る中での演奏を楽しみました。会場は幻想的な空間に包まれました。



3 成果と課題

企画会議や講座の運営に携わっている小中学生のキッズスタッフには令和7年度は13人が登録し、企画員の中でも異世代交流が広がっています。講座に参加した受講生からは「楽元の森でしかできない貴重な体験でした」、「私もキッズスタッフの活動がしたいです」などの感想が寄せられました。会議や講座の日程等について今後検討していく予定です。

4 今後の展望

地域の住民同士が交流する機会を作れるよう、また「楽元の森運営委員会」が主体的に楽元の森の整備やイベント等の事業企画・運営を行ったり、地域の活動に参加したりできるよう、支援を継続していきます。

4月～11月（8月を除く）

「企画会議」

※「楽元の森」で行う講座の企画や運営について話し合いました。



10月26日（日）

「山田ふれあいまつり」
※楽元の森運営委員会のブースを出し、楽元の森での活動を紹介しました。



「かむりの里・子育てフレイス～地域いきいきプロジェクト～」

根白石市民センター×泉区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

近年、根白石地区では子育て世代の新規居住世帯が増え、こどもの数も比例して増加しています。しかし、公園などの施設が少なく、子どもたちが自由に遊べる場所や保護者同士が交流できる機会が限られていることが課題となっています。このため、令和7年度は、様々な団体の協力を得ながら、地域の特色を活かした講座を開催し、こどもの成長を地域全体で支える環境づくりと、共助意識の醸成を目指しました。



中学生との企画会議

2 令和7年度の活動

①「夜の散歩会」（7月）

ホテルに関する講座と地域の生息地での観察会を実施しました。子ども達は夜の自然に親しみ、大人達との交流を深める貴重な機会となりました。

②「さあ体操で遊ぼう！出張体操プレーパーク」（12月）

トランポリンや遊具を使った体操イベントを企画し、寒い冬でも子ども達が楽しく体を動かせる場を提供しました。

③「ノージェネレーションフェスティバル」（2月）

地域の小学生が、中学生や大人と世代を超えて交流できる場をつくりたいという思いを込めて名付けました。当日は、中学生企画員が自分達で考えたブースを出展する予定です。



ホテルに関する講座（7月）

3 成果と課題

子育て世代の3名が企画員となり、地域の課題を踏まえて、ホテル観察や体操イベント、世代間交流フェスティバルを企画しました。これらの取り組みを通じて、子ども達が自然と触れ合い、運動の楽しさを体験できる機会をつくりました。さらに、活動の中で幅広い世代が顔を合わせることで、自然な交流や会話の機会が生まれ、地域のつながりづくりに貢献しました。



体操イベント（12月）

4 今後の展望

今年度は、企画員のアイデアを活かし、自然体験・運動・世代間交流など多様な活動を実施することができました。今後も、自主的に創造的な活動を続けることで、地域を担う人材としての経験値が高まることが期待されます。

今後は、季節や地域の資源を活かした新しい講座を企画し、子育て世代や新旧住民の交流をさらに広げることで、地域全体で子どもを育てる環境づくりを進めたいと考えています。

「まちを知る 七北田を歩く―地域いきいきプロジェクト―」

泉区中央市民センター（地区館）×泉区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

泉区中央市民センターの管内には、奥州街道の宿場町として1623年に始まった七北田宿があり、2023年で開宿400年となりました。その節目の年を迎えるにあたり、令和2～4年度まで複数年で「いずみ探訪―地域案内人養成講座」を開催し、七北田地域の歴史資源を学んできました。その講座の受講生から発足した自主活動グループ「七北田探訪会」が案内人となって、令和5年度より本事業「まちを知る 七北田を歩く」を開催し、奥州街道の宿場町だった歴史、史跡など古きを知ることで未来の自分たちのまちを考える機会となるようなまち歩きの講座を実施してきました。3年目となる今年度は、訪問範囲を広げ、泉区内の歴史資源の価値を地域に伝えることを重視して実施しました。



2 令和7年度の活動

令和7年度は地域住民を対象としたまち歩き講座を2回開催しました。9月6日には「洞雲寺・七北田刑場跡編」、11月12日には「熊野神社・中山早坂石碑群編」を実施しました。昨年度に引き続き洞雲寺を訪れましたが、今年度は往復マイクロバスを活用できたことで移動範囲が広がり、新たに七北田刑場跡をコースに加えることができました。



また、これまで七北田地区周辺に限定していたまち歩きを、泉区の西側へと広げて地域の貴重な歴史資源を訪れる機会を設けることができた点は大きな進展と言えます。2回ともマイクロバスを利用できたことで、移動時間を活用した車内での解説や現地での十分な説明時間が確保でき、内容の充実につながりました。また、案内を担当した「七北田探訪会」のメンバーにとっても初めての場所が含まれていたため、事前の下見や歴史資源の調査、説明内容の検討を重ね、さらに写真を多用した配布資料を作成し、後から振り返りができやすいように工夫しました。また、「質問カード」を新たに取り入れ、参加者が疑問点を気軽に質問できるようになり、移動中や講座終了後のまとめの時間に回答することで、主体的な学びの場を実現することにつながりました。

3 成果と課題

今年度の成果としては大きく2点挙げられます。第1に、訪問範囲を広げ新たな場所の案内に挑戦したこと、案内ボランティアの意欲とスキルの向上につながり、さらに、参加者の興味・関心を深めることもできました。第2に、講座参加者のうち2名が新たに「七北田探訪会」に入会し、活動のすそ野が広がりました。参加者からは、「身近な地域に深い歴史があることに感激した」「説明や資料が分かりやすく充実していた」「もっと地域の歴史を知りたいと思った」などの好意的な感想が寄せられ、地域の歴史を学ぶことで地域への愛着を深めるといった目的は十分に達成できたと感じます。また、昨年度の課題であった「訪問先の十分な時間確保」についても、バス利用と事前準備の重点化により改善を図ることができました。

4 今後の展望

今後も引き続き「七北田探訪会」と連携して、地域への関心が高まるきっかけとなるまち歩き講座を開催する予定です。また、新規メンバーを迎えた「七北田探訪会」のスキルアップやメンバーの増員につながる活動を支援するとともに、学びを地域に還元する活動として発展させていきます。

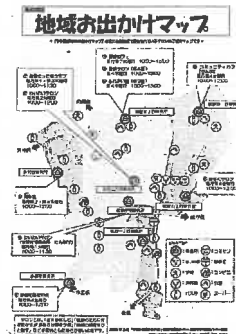


「つながるプロジェクト」

松陵市民センター×泉区中央市民センター（拠点館）

1 事業概要

松陵・向陽台地域では地域の高齢化とともに、集会所・コミュニティセンター・老人憩の家で行われる「高齢者サロン」の重要性が増しています。しかし、地域活動に従事する人材は少なく、サロン代表・担当者の負担増やサロン同士の横のつながりが十分とはいえません。そこで本事業では、各サロンの活動内容をまとめたパンフレットを作成し、活用してもらうことで更なる横のつながりやサロン主催団体を含めた地域住民全般に地域の情報を広げて知っていただくことを目指します。



2 令和7年度の活動



5月に松陵・向陽台の各サロン代表者と打合せを行い、さまざまなご意見をいただきました。その中で「新規参加者が、いかに入りやすい環境を整えることができるかがとても大切である」という話を伺いました。そこで、各サロンの活動拠点である地域のコミュニティセンターや集会所に出向き、「つながるプロジェクト」の趣旨を説明し、各団体の情報収集に努め、最新の情報に更新するとともに、サロンの雰囲気や活動内容が一目で分かるようなパンフレットを作成しました。

3 成果と課題

これまでの取り組みにより、他のサロン活動の見学をしたいという声も聞かれるなど、始まった当初に比べ、着々とサロン同士の横の「つながり」が出来てきています。令和7年度は5年間の複数年事業の最終年度となりましたが、パンフレット作成を通じて団体間の情報交換を行うことができ、団体同士の「つながり」をいままて以上に構築、強化することができました。

サロン代表者や担当者の後継者不足については今後の課題です。



4 今後の展望



令和3年度から作成を続けてきた各サロンの紹介パンフレットとその団体の活動拠点をお知らせするお出かけマップは、地域での認知度も高まり、配布・配架したサロンや民生委員児童委員の方から非常に有用で重宝しているとのお声をいただいています。今後もこのパンフレットを目にした方がサロンに興味・関心を持ったり、他サロンとの交流などを通じて、「つながり」が広がっていくよう、引き続き支援していきたいと思ひます。